

Good WORK Good PEOPLE  
はままつ HAMAMATSU

## 仕事と生活の調和がとれた職場で、 地域貢献事業を支える（浜名湖競艇企業団）

収益金が自治体の公共事業に役立っている公営競技。やりがいのある仕事と、充実した生活を送るための制度が整う浜名湖競艇企業団の職員にワークライフバランスについて聞いた。

《企画・制作／静岡新聞社営業局》



### ◆ボートレースの楽しさ伝えたい



宣伝課主事補  
伊藤 宏誠さん(26)

大学生時代にボートレースに魅せられ、レーサー試験まで受けたという伊藤宏誠さん。レースを運営する側で働きたいと企業団に入団し、現在は広告関係の業務を担当している。「レースの魅力や、開催するイベントのポイントを分かりやすく表現するのに苦労しています。インパクトのある広告ができるかと来場者増につながり、手ごたえを感じます」とやりがいを語る。職場では希望の休みを取得しやすいように、職員同士で調整。伊藤さんは趣味の魚釣りや、スノーボードでリフレッシュしているという。

ボートレース浜名湖の事業収益は浜松市と湖西市の公共事業などに役立てられている。「ボートレースの盛り上がり、地域貢献につながるので、これまでのボートレースファンを大切にしながら、ファミリーや若者が楽しめるイベントも充実させていきたい」と目標を高くしている。



広告原稿をチェックする伊藤さん

### ◆若い発想を生かしたい



総務課主事  
高橋 直也さん(29)

祖父から企業団のことを知らされて、初めて観たレースでスピードと音の迫力に圧倒されたという高橋直也さん。来場者と直接関わる現場を経験し、現在は総務課で施設管理の仕事に取り組む。「2018年3月の特別なレースの開催にむけて現在、有料席のリニューアル計画を進めています。どのような施設が求められているかを把握し、レースを快適に楽しめる環境整備を目指しています」と話す。



同期職員と打ち合わせをする高橋さん

若手の職員も多く、自由に意見を交わせる職場環境に満足しているという高橋さん。若い人の発想がこれからのボートレース事業の運営に欠かせないと強調する。「2018年の職員採用の受付期間は、4月24日から5月15日まで。インターンシップも、通年で行っているの、興味がある方は、ぜひ体験してほしい。詳細は、ホームページ一番下の『浜名湖競艇企業団』の採用情報に掲載しているのでチェックしてみてください」と呼び掛けている。

### ◆女性目線が生きる職場



総務課主事  
岩井 香澄さん(33)

岩井香澄さんは入団7年目。「企業団職員は地方公務員なので、安心感がありました」と振り返る。

2018年に向けた施設のリニューアル計画には、女性目線からの提案も加えているという。「楽しく快適なレース場にするために、内装や、トイレ施設など、男性には気づきにくい『質感』の部分で女性の意見を生かしています」

職場では、産休や育休について、それぞれの家庭の事情に合わせてフレキシブルに対応しているので「早く復帰しなければというプレッシャーを感じることはありません」と説明する岩井さん。年に1、2回、まとまった休みが取れると海外旅行を楽しんだりしているという。



女性が長く働ける職場ですと話す岩井さん